

第5回運転責任者諮問委員会 議事要旨

1 日 時 平成22年10月1日(金) 13:30~14:30

2 場 所 日本原子力技術協会 特別会議室

3 議 題

(1) 平成21年度原子力発電所運転責任者判定業務の実施状況について

4 出席者(敬称略, 順不同)

(委員) 木村委員長, 森本委員, 市瀬委員, 副島委員

(原技協) 藤江理事長, 百々専務理事, 成瀬理事部長, 青部長

(事務局) 北村GL, 阿部, 久保田

5 議事概要

(1) 平成21年度原子力発電所運転責任者判定業務の実施状況について

事務局より, 平成21年度原子力発電所運転責任者判定業務の実施状況及び独立性, 公平性, 公正性の観点からみた状況について説明を行った。

主な質疑内容等は以下の通り。

更新の判定の保留について

更新の判定の保留は, 更新時に管理・監督的地位にあるかどうかで判定されるのは奇異な感じがする。管理・監督的地位に復帰したら, 合格証を与えるというのであれば, 最初から保留をせずに, 合格証を与えても良いのではないか。また, 管理・監督的地位が必要で合格証を与えないのであれば, 合格証保有者についても管理・監督的地位を離れた時点で合格証を返上する等の対応が必要ではないか。更新時点での管理・監督的地位の有無で決めるのは, 整合がとれていない気がする。ロジック的に説明が出来るように検討してもらったほうが良い。

検討する。

講習におけるレポート評価で合否の否はあるのか。

講習を理解していないと判断されるレポートは否と評価される。ただし, 否になった前例はない。

口答試験は統督が対象であるが, (運転責任者に) 大切なのは, プラントに何か不具合があった時にいかに対処するかである。具体的にどのような確認を行っているのか。

口答試験で運転責任者として必要な判断力, 決断力の確認を行っており, 加えてヒューマンエラー対策, 安全文化, 技術者の倫理についても確認している。他の項目(イ項, 口項, ハ項)は主として知識の確認であるが, 統督は運転責任者としての資質を確認している。

発電所でヒヤリハットとか, ヒューマンエラーを引き起こした事例は試験とリンクしているのか。

→ヒューマンエラー, ヒヤリハットは主として運転員が起こすものであり, リーダーシップが関係するとはいえ, 運転責任者が直接, 引き起こすものでないため, 運転責任者試験とのリンクは難しい。ただ, 運転員のヒューマンエラー対応は訓練センターでのファミリー訓練等で補っている。

トラブル、事故の教訓は取り入れているのか。

→協会では国内外のトラブル・事故事例を電力に発信しており、電力各社で反映している。また、訓練センターにもトラブル、事故事例情報を提供しており、訓練センターは、トラブル、事故事例を吟味し、必要なものは訓練に取り入れている。

筆記試験問題は約1200問に難易度を設定しているとのことだが、幅広く出すということと、難易度を一定の範囲とするということは、問題選定に当って矛盾が生じないか。

→偏らないように幅広く問題を選定した後、難易度を算出し、難易度が範囲を外れれば、試験問題の選定を見直す。

→筆記試験問題選定に当って、事務局の恣意が入らないように、ランダムに選定できるよう工夫したほうがよいと、前回の委員会でコメントを受けたが、ランダムに選定すると、以下のような弊害がある。

- ・類似した問題になることがある。
- ・選んだ問題が独立でなく、一方の問題が他方の問題の正解を示していることがある。

従って、試験問題管理表を用いて、出題履歴管理を行い、偏った出題にならないようにしている。

異議申し立ての実績はあるか。

ない。

委員長まとめ

もう少し事例を積み重ねないと判断はできないが、これまではうまく行っているものと判断できる。

以上